

CATCH UP WITH AND OVERTAKE

このコーナーは、消防の先輩から後輩へ伝承することをテーマに色々な先輩方からのインタビューを掲載していきます。

今回は、平成最後の年に救助隊長となり、救助大会では、はしご登はん・斜めブリッジ救助・ロープブリッジ救出で活躍した伊藤司令のお話です。

何事にも緻密に準備を進め、またそのために努力を惜しまず、今も進化し続ける私の模範となる先輩です。「第49回近畿地区指導会」に初出場する予定だった私、松原勇介がインタビューします。



ズバリ！伊藤司令にとって「救助訓練」とは??

可能性を最大限に引き出してくれる現場

伊藤司令直伝のはしご登はんの極意を一部動画で紹介！
大阪市消防局公式YOUTUBE



今の自分があるのは・・・

松原 いろんな種目を経験されていますが、何か理由があるのですか？

伊藤 可能性を試したくなったから。初めて出場したのは、はしご登はんだった。先輩の熱心な指導で可能性を最大限に引き出してもらい、全国大会にも出場できた。この頃の救助訓練で、誰よりも訓練の回数をこなせる強い肉体と、しんどい時でも自分に負けない強靱な精神力を養うことができ、自分も大阪市の代表として戦える自信が持てるようになった。その自信が芽生えてから、はしご登はん以外のものにも挑戦したい気持ちが強くなり、斜めブリッジ救助に挑戦…はしご登はんでも培ったもので、他種目でも全国大会出場が叶った。その後も挑戦は続いたが…。実は、松原が強化隊員に選抜された障害突破も頑張ってみたけど、近畿地区指導会の出場も適わなかった。すごい松原…大会中止の不運に負けず、次も頑張ってお出場権を手に入れるよ。

松原 はい、絶対に手に入れます。救助訓練を通じて何か得ましたか？

伊藤 はしご登はんでは、集中力と自信。斜めブリッジ救助では、仲間の大切さ。ロープブリッジ救助では、要救助者の気持ち。そして、今の自分があるのは、この頃の経験だな。

はしご登はんの魅力

松原 はしご登はんの魅力は何ですか？

伊藤 緻密で繊細なところ。はしご登はんは13秒の世界。陸上競技で例えると100m走。例えばスタートの出遅れはそのまま結果として現れる。障害突破とは違い、ミスを取返すのが困難な種目。目標達成するためには、緻密な訓練計画とロープを掴む位置や腕の角度など拘りが必要になってくる。そのため物凄い緊張とプレッシャーがかかるが、結果がでた時は半端ない達成感を味わえるところが魅力だ!!

後輩たちへメッセージ

先輩からの教えは、後輩へ伝承してください。教わったことをそのまま伝えるのではなく、自分の経験も交えて伝えてください。「同じ結果」の場合もあれば、「新しい道」が開ける場合もあります。

私の思う伝承とは、進化への後押しだと思います。現に「救助訓練」も私が出場した時より技術は進化しています。それは、先輩たちが築いてきた経験を後輩へバトンしてきた結果だと思います。

後輩たちへ「進化」するための「伝承」をお願いします。



住吉消防署 救助隊長
消防司令 伊藤 真一

昭和49年生まれ(46歳)、平成5年拜命救助隊や消火隊として活躍したほか、高度専門教育訓練センターで4年間消防職員の教育にも携わっている。また、大阪市消防局の代表としてウルグアイにも派遣される等、様々な経験をされている。現在は、災害現場において救助隊長として活動し、人命救助や所属における救助隊員の育成などで活躍されています。

【救助訓練の実績】

はしご登はん	
▶救助技術近畿地区指導会	3回出場
▶全国救助技術大会	2回出場
▶第27回全国救助技術大会	第2位
斜めブリッジ救助	
▶救助技術近畿地区指導会	1回出場
▶全国救助技術大会	1回出場
ロープブリッジ救出	
▶救助技術近畿地区指導会	1回出場



達人から教わる はしご登はんの極意！

訓練時間わずか13秒。スタートのみに集中し、他は考えない。

訓練中のポイント

【其の1】結索

コイル巻き身体もやいはいは、次の動作へ流れないことを意識する。力まず遠心力でロープを投げる。

【其の2】登はん

登りまくる。7m、15mなど距離に変化をつけた訓練も必要。

【其の3】メンタル

欲のでる環境で、ココ一発の訓練をする。憧れの先輩の目の前で。